

巧達科技とプライバシー

陳言



個人情報保護の問題は、中国のインターネットにおいて常に議論的となっている問題である。

2019年3月、中国最大の履歴書ビッグデータの会社であると称し、かつて李開復(Kai-Fu Lee)率いるファンド「創新工場」(Sinovation Ventures)の投資対象となったこともある「巧達科技」は警察の取り締まりを受け、すべての従業員が連行された。個人情報の保護と、国家行政機関によるウェブサイトへの干渉が、再び一般大衆の注目する問題となっている。

現在中国のネットワークで見られる巧達科技に関する情報は非常に少ない。企業信用情報で見ると、この会社は2014年7月17日に設立され、法定代表者は王成予で、登録資本金は1050万人民币元、登録住所は北京市海淀区である。公開されている情報によれば、巧達社は、ユーザー画像キーデータサービスを提供する会社であり、ビッグデータ及びAI分野における先駆的技術の研究開発を専門とし、ユーザーにはインターネット分野及び総合金融分野の事業者が含まれている。

WeChat(微信)公式アカウント「商評君互金商業評論」に発表されている関連する文章から見ると、巧達社は設立後、その年の10月にエンジェル投資を受け、11月には李開復(Kai-Fu Lee)傘下の「創新工場」(Sinovation Ventures)ファンドから数百万ドルのシリーズAラウンド融資を受けた。2017年1月には中信産業ファンド等からシリーズBラウンド融資を受け、その金額は数千万人民元であり、推定2億ドルとされている。

巧達データ社は、中国最大の履歴書データバンクであると自称しており、その主要なデータ源は求人サイト「喬大招」である。そして喬大招傘下には「愛夥伴(グッドパートナー)」「履歴書タイムライン」等の十数種類の求人関連データサービス製品がある。

巧達データ社がかつて対外的に情報開示したところによれば、2015年6月30日までの時点で、喬大招のデータベースには、自然人の人数としては1.6億人以上の履歴書が収容されており、履歴書のバージョンで数えれば18億以上、行動履歴は25億以上に上る。

王成予はかつて、「履歴書は最も価値のある自然人データである。巧達データ社はビッグデータとAI技術で開発した認知エンジンを通じて、インターネット上の自然人の鮮明な画像を復元し、事業者にも実用的なマーケティング案を提供し、現在人材募集、Eコマース、映像、保険、金融等の業界で、170万社以上のインターネット企業とヘッドハンティング企業が関連製品を使用している」と表明していた。

会社自体はどのように履歴書を使用するのだろうか？求職者は人材募集サイトに履歴書を送り、ウェブサイトに権限を付与し、人材募集サイトは求人企業に閲覧の権限を与えることができる。ただし求人企業は他の会社に履歴書を送信し閲覧させる権限は持たない。巧達社の警報システムは、求職者の情報を現在就業中の会社へ送信し、その企業から一定の費用を受け取る。ネット上では同社

のこのようなやり方は「かなり不愉快だ」「ユーザーのプライバシーの漏えいだ」と評されている。

インターネット安全の分野の専門家は、巧達科技の手法は、実際には中国のインターネット事業者全体のデータと個人のプライバシーに関する混乱の一部に過ぎないと考えている。中国のビッグデータ分野の基本的現象の一つは、数多くの個人情報むき出しのまま飛び交っているという状態である。そしてそれに対応して、クローラー技術が傍若無人に伝統的な個人の領域に侵入するのである。多くの起業間もない会社はユーザーデータを取得するための合法的・合理的な手段を持っておらず、最終的にデータの不正取得・盗用者となってしまうのである。

現在、監督部門はビッグデータのプライバシー侵害に対する取締を始めており、中国のインターネット産業がいかにプライバシーの保護を行っていくかについて、関連する法令の整備が必要である。

先益(北京)科技有限公司 総経理